

コロナの影響で食育体験教室は実施できず

備前福岡の市圏地産地消推進協議会

活動の目的

コロナ禍で、子どもたちを取り巻く環境は、大きく変わってきており、学校給食さえまともに実施できない危機的な状況になってきている。とはいえ、成長盛りの子どもたちにとって心と体の栄養は必要不可欠であり、食農教育を通じて、体の栄養だけでなく、心の栄養補給も目指していく。

身近な学校給食をきっかけに、食への関心を高めてもらう。地元瀬戸内市の生産者が育てた食材を給食メニューで提供し、その地元食材をきっかけに地域の生産者、地域の農業に関心を持ってもらい、感謝の気持ちを持ってもらう。

また、地域の方の生産者等を講師に、農業体験メニューや料理作りに参加してもらい、自らの体験を通して、食や地域農業や地域自体に関心を高めてもらう。

このように、地域の豊かな自然とそこで生産を営む大人たちと子どもたちが食農教育を通して連携していくことで好循環を生みだし、持続可能な地域づくりに貢献していく。

活動の内容及び経過

2020年度は、食農体験メニューのブラッシュアップを行いながら実施の機会をうかがっていたが、コロナが拡大する中で、体験メニューの実施は諦めざるを得なかった。

そこで、2021年度に予定していた「食育パンフレット」の作成を行った。5000部作成し、瀬戸内市内の保育園・幼稚園・小学校・中学校・邑久高校に配布した。

この中に、食育体験メニューも掲載し、次年度以降の実施に向けて準備していった。

(なお、パンフレットの作成は、瀬戸内市の委託事業で行ったため、今助成は活用していない)

活動の成果・効果

「かつて人類は、野や山を駆けずり回り食べ物を手にしてきました。・・・今では、スーパーやコンビニ、外食や通販という形で、お金を出せば何でも手に入る時代になっています。・・・『いただきます』とは、大切な食べ物に対する感謝の言葉です。・・・そして、それらを生み出す豊かな自然と、育て届けてくれる人々への『ありがとう』の気持ちです。」(パンフレット冒頭説明)

という形で、食育活動を定式化できた。そして、それと連携する形で食育体験メニューも提起できたので、来年度に向けた体制作りは完成した。

今後の課題と問題点

次年度に向けて、準備はできたが引き続きコロナの影響が予想される。



食育パンフレット 外面



食育パンフレット 中面

早くから、メニューの案内は各学校レベルにまで降ろしているが、どのように授業に組み込んでいただけるか不明な点が多い。

- 代表者：大倉秀千代 ●所在地：瀬戸内市長船町福岡
- TEL：0869-26-2978 ●E-MAIL：mail@ichimonji.ne.jp
- 設立年：2007年 ●メンバー数：38名